

## 道本部労災職業病部会第2回幹事会 1月からの新規認定17件 労働行政をめぐる動きでも議論

道本部労災職業病部会は2月23日に第2回幹事会を開きました。会議では、昨年7～12月の新規認定数（101件＝振動障害55/じん肺5/アスベスト1/騒音性難聴27/遺族補償13）のまとめとともに、1月以降のとりくみについて報告されました。この日の会議までの認定数は17件で、内訳は振動障害9件、じん肺3件、難聴3件、じん肺遺族補償2件です。

健康相談会は2月下旬から4月にかけて16地域でおこなわれますが、釧路支部では自治体の広報に掲載してもらったり、函館支部（ケーブルテレビ）や釧路支部（FMラジオ）の経験に学んで旭川支部でも地元のFMラジオへの出演が決まるなど新しいとりくみも報告されました。

会議の中で、労働行政をめぐる動きが報告されました。厚生労働省は「労働基準監督署の組織・業務改革案」を示していますが、この中で①労災部署に配置されている監督官の監督部署への配置換え、②労災補償の業務を労働局に集中し、非常勤職員の拡大や外部委託をおこなうなどとしています。これは「監督指導體制の強化」を掲げながら、労災補償体制を縮小させるもので、労災認定の遅れや適正給付管理への影響などが懸念されます。「監督部門の強化は人員増でおこなうべきだ」など、この問題をふくめて新年度の労働局への要求書について議論しました。

### 岡内裁判・公正判決を求める署名が10,730筆に

岡内優子さんの労災不支給決定取り消しを求める裁判で公正判決を求める署名の第3次分として470筆を2月23日に札幌地裁に提出し、署名数の合計は10,730筆となりました。

## 札幌と釧路で「相談会」

**2月25日 3会場に22人**

札幌労災支部は2月25日に札幌市豊平区の月寒団地集会所で「健康相談会」を開き、6人の相談者がありました。1人は型枠工として30年働いて「耳が遠い」という相談で、振動障害の可能性もある人でした。もう1人は解体の仕事をして25年やってきた労働者で、じん肺の検査をするためにあらためて会うことにしました。ほかの4人は、市営住宅月寒団地で「アスベストが飛散した可能性がある」という報道が昨年あったことから、この団地（現在は解体中）に住んでいたことのある住民からの健康被害についての相談でした。

釧路支部が2月25日に釧路市内の2会場で開いた「建退共・職業病相談会」には17人が来ました。労災関係の相談は13件（振動障害7件と騒音性難聴6件）で、建退共についての相談が10件でした。このうち2人についてはすぐに振動障害の検査を受けてもらう予定です。建設関係の相談者のうち3人が「一人親方」でしたが、労働者性が低く、労災保険の特別加入もしていない人もいて「何もできない」ケースもありました。学校の公務補をしていた人（73歳）の振動障害の相談では「60歳ころに労災病院に行ったが何もしてくれなかった」という訴えもありました。